

銘傳大學 98 學年度研究所碩士班招生考試

應用日語學系碩士班

第三節

日文試題

(第 1 頁共 3 頁)(限用答案本作答)

可使用的計算機 不可使用的計算機

一、下線部の漢字には正しい読み方を、ひらがなには正しい漢字を書きなさい。10% (1%×10 問)

1. ①納税者に②ふよう家族があれば、③控除が受けられる。
2. 他国への④ぐんじかいにゆうや⑤ないせいかんしょうには、国外からの批判だけでなく、国内での反発が起こることもある。
3. 人間の各種機能を⑥代替するようコンピューター⑦せいぎょされた産業用ロボットの導入が盛んである。
4. ホームページで食欲の秋を⑧満喫しよう。⑨自炊派なら、テレビの料理番組にアクセスすれば、⑩くろうとはだしの料理が手際よくできあがる。

二、下線部に適当な言葉を入れなさい(漢字に仮名を振る)。10% (1%×10 問)

1. 上司の命令に忠実に従い、会社のために_____サラリーマンが多かった。
2. 高齢者もハンディキャップを持つ人も普通に暮らせる_____の社会をめざそう。
3. 企業活動の目的は_____をできるだけ多くすることである。
4. A銀行とB銀行が_____して世界一の銀行が誕生するそうだ。
5. 世界各地の文化は優劣という_____からではなく、違いとして捉えるべきだ。
6. 彼女はに_____にこたえてもう一曲歌った。
7. 遺伝子組み換え食品の安全性についての問題点を、多くの人が_____している。
8. 地球の砂漠化は拡大の_____をたどり、多くの難民をも生んでいる。
9. 電子メールは、多数の相手に同時に同じ内容のものを_____することができる。
10. 都会や工業地帯に働きに行く人が増え、農村地帯では_____化が進んだ。

三、下線部に適当な文法的な機能語を入れなさい。10% (1%×10 問)

1. さすが、一流の職人_____の技が光っている。
2. 宝くじが当たって都心に一戸建ての家を買うなんて、うらやましい_____。
3. 手術ミスで子供を失った両親の悲しみは想像に_____。
4. お金がないなら_____、楽しむことができる。
5. 選挙の結果_____では、国会の解散もありうる。
6. こんな面倒な仕事を引き受けてくれるのは、彼女をおいて_____。
7. いくら保険に入っている、事故を起こしてしまえばそれ_____。
8. 見る_____テレビを見ていたら、よく行くレストランが映っていた。
9. 一級合格者_____、レポートも上手に書けるものだ。
10. 国民の反対を_____その法案を国会で可決された。

本試題両面印刷

銘傳大學 98 學年度研究所碩士班招生考試

應用日語學系碩士班

第三節

日文試題

(第 2 頁共 3 頁)(限用答案本作答)

可使用的計算機 不可使用的計算機

四、下線部に適当な体の一部を使った慣用句を入れなさい。10% (2%×5 問)

1. あの映画のラストシーンは_____名場面の一つだ。
2. 東京都心の一戸建て住宅は、庶民には高くとても_____。
3. 教師には_____話でも、学生の評価は素直に受け止めるべきだ。
4. 年度末になると、決算や確定申告で_____ような忙しさと首が回らない状態が続いていた。
5. 弁護士は、依頼人が誰であれ、その人の_____のが仕事だ。

五、次の中国語を日本語に訳しなさい。30% (10%×3 問)

1. 台東縣太麻里金針山標高 1340m，是東台灣觀賞日出的最佳觀賞點。因為這裡氣候涼爽，因此每年一到夏天就會湧入大批的登山客來這裡爬山，享受攻山頂的樂趣。
2. 教育部規定小學三年級才教英語，但已經有很多縣市偷跑，造成進了小學後班上程度有明顯落差，結果沒想到越早學英語，反而造成小學生對學英文沒興趣。
3. 許多理財專家都說過，要致富之前要先學會記帳。記帳的好處多多，不但可以了解自己一天的花費，還可以了解自己把錢花在哪些地方，做好金錢控管，下一步才有可能存錢與投資。

六、読解 I：次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。15% (3%×5 問)

最近、戦争を美化する向きがある。しかし、と思う。

先日の「声」欄に、中国に住む日本人女性 A さん (87 歳) の寂しい野辺送りのさまが、投稿で載った。以前に同じ欄で、「病床で桜思い歌う残留婦人」と紹介された女性である。

敗戦で、中国に残された女性のなかには、日中それぞれの家族の事情などから、日本に帰れない人々がいる。

私自身は A さんに会ったことはない。ただ、以前に取材で訪れた中国東北部で、似た境遇の女性たちに会った。あらためて、その一人ひとりの顔が思い出される。

長野県出身の婦人は白髪交じりの髪をひつつめた、細面の人だった。辺境の村からバスで徒歩で数時間かけて会いに来てくれた。途中、洪水で道が遮られ、腰まで水につかって渡ってきた、と言った。敗戦の (①) のなか中国人男性のもとに嫁いだ。帰国希望の手紙に、長野の実家からは、②「あきらめて」と、生活の苦しさをにじませた返事が来た。それでも、と③「一筋の思い」で日本人記者に会いに来たのだ。

ふくよかな笑顔をしたおばあちゃんは、奥地の農家で子や孫と一緒に、私を待っていた。

「日本語を忘れてしまって」と恥ずかしそうに言う。正確で美しい日本語だった。「この子たちもいて、幸せ、ですよ。日本に帰ろうとは、思いません。」心配げに見守る中国人のお嫁さんたちに囲まれて、一言ずつ語った。

開拓団の一員だったという別の婦人は、私を近くの畑地へ連れていった。中国東北部らしいなだらかな丘を指さす。

「ね、あの丘なの、富士山にそっくりでしょ」

少しも似ていない。それが、④「私にはつらかった」。

1. (①) に入る適当な言葉は何か。
2. ②「あきらめて」とあるが、何をあきらめるのか。
3. ③「一筋の思い」とあるが、どんな思いか。
4. ④「私にはつらかった」とあるが、何がつらかったのか。
5. 筆者は、戦争についてどう考えているか。

本試題両面印刷

銘傳大學 98 學年度研究所碩士班招生考試

應用日語學系碩士班

第三節

日文試題

(第 3 頁共 3 頁)(限用答案本作答)

可使用的計算機 不可使用的計算機

七、読解Ⅱ：次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。15% (3%×5問)

また大切な人が亡くなった。五月四日、長洲一二先生がなくなったのだ。

長洲先生は私の大学におけるゼミナールの教官だった。しかし、先生が私にとって「大切な人」だったというとき、それは単にゼミナールの教官であったからというだけではない。先生は、いわば^①「最初の人」だったのだ。

それは私が十九歳から二十歳になろうとしているときのことだった。初冬のある日、私は鎌倉の長洲先生の家に向かっていった。当時、私は経済学部の二年生でゼミナール選択の時期を迎えていた。だが、経済学という学問そのものに興味を失っていた私には、どの教官のどのゼミに行こうが大差ないと思えてならなかった。それでも最終的に長洲ゼミを選ぶことにしたのは、先生の「社会科学概論」の講義が、私の出席していた数少ない講義のひとつだったからということが大きかった。しかし、当時の長洲先生の論壇のスターだった。そのような「花形教官」のゼミを選ぶということに、ある種のやましさを覚えないわけにはいかなかった私は、第二志望のゼミに、^②「心理的なバランスを取ろうとした」。

その志望書を出してしばらくすると、教務課の掲示板に、長洲ゼミを希望する者は原稿用紙五枚以内で作文を書いてくるようにという貼り紙が出された。希望者が多いため、それによって選択するということのように思えた。

退屈していた私は暇つぶしができたことを喜び、その作文を書き上げることに熱中した。しかし、自信をもって提出した二週間後、長洲ゼミに入ることを許可された十二人の名簿の中に私の名はなかった。私はそれを見てショックを受け、次に腹を立てた。あの作文のどこが悪かったというのだろう。先生に会ってその理由を教えてもらいたい……。

先生の前に座った私は、緊張したまま訪ねてきた理由を話しはじめた。それを黙って聞いていた先生は、私が話しおわると、意外なほどやさしい口調で言った。

——私が作文を書かせたのは、可否の判定をするためではなかった。どれだけ本気で入ろうとしているかを確かめただけで、中身はまったく読まなかった。では、どのように可否を決めたのか。それは第二志望のゼミをどこにしているかによっていたのだ。つまり、私のゼミを落とされた人が、第二志望のゼミにも入れてもらえないなどということがないように、希望者が多いところを第二志望としている人を入れ、少ないゼミを第二志望としている人を機械的に落としたのだ……。

それを聞いて私は納得した。先生はあの作文を読んで落としたのではないという。それならこちらも文句のつけようがない。素直に第二志望のゼミに行こう。そう思っていると、しかし、と先生は言った。「どんな理由であれ、私は君を私のゼミに入れなかった。そうなんですわね」。私がうなずくと、先生はこう言った。「それは間違いでした」。

私は驚いて先生の顔を見た。すると、先生はあらたまった口調でこう言ったのだ。「私のゼミに入ってくれますか？」その言葉にさらに驚かされた。ゼミに入れてやろう、でもなく、ゼミに入りなさい、でもなく、ゼミに入ってくれますか、と言ったのだ。私は^③「しばし茫然とし」てから、慌てて、ええ、と返事した。

いまでも、先生が亡くなったいまでも、あのときどうして「入ってくれますか」などというような言い方をされたのかわからない。しかし、それが私にとって初めての言葉だということはその時すでにわかっていた。その言葉の底には、^④「君は何者かでありうる」というメッセージが存在するように思えた。そして、そのようなメッセージを発してくれた「大人」は先生が初めてだったのだ。もしかしたら、私は二十歳からの困難な数年を、先生のその言葉ひとつを支えに切り抜けていったのかもしれないと思う。

そしてこうも思う。教師が教え子に、あるいは「大人」が「若者」に、真に与えられるものがあるとすれば、それは「君は何者かになりうるんだよ」というメッセージだけではないだろうか。

1. 長洲先生が筆者の^①「最初の人」である理由は何か。
2. ^②「心理的なバランスを取ろうとした」とあるが、何と何のバランスか。
3. ^③「しばし茫然とし」た理由は何か。
4. ^④「君は何者かでありうる」の意味は何か。
5. 長洲先生の学生に対してどんな態度を取っているか。

試題完